

火起こし体験

「まいぎり」という道具を使って火おこしに挑戦。火がおきた時の達成感は格別で、その火を使っての料理やキャンプファイアに発展できます。



ねらいとして考えられるもの

- ・昔の火おこしの方法を知り、それを体験することによって先人の知恵や工夫を知るとともに、火の大切さとありがたさを理解させる。
- ・協調・協同を通して豊かな人間性の育成

可能な活動場所

ピロティ・車庫・中庭

所員の指導	対象	月	人数	所要時間	費用
指導可*1	4年生以上	通年	10~60人*2	1時間半	50円

団体が準備するもの

なし

げんきプラザが準備するもの

火おこし機、火きり板、麻ひも、古ハガキ

実施要領

導入

- ① 動機づけ
- ② 安全上の注意（下記「留意点」参照）

準備

- ① 班に分かれる（1班4人程度）
- ② 班に1つ丸太の椅子を用意する。
- ③ 班ごとに道具の準備をする。（火おこし機、火きり板、麻ひも、古ハガキ）

実施

- ① 麻ひもをほぐし、鳥の巣状の火口を作っておく。（細かくきれいにほぐさないと、うまく発火しない。穴のないように注意する。穴があると、火種が落ちてしまう。）
- ② 火きり板を置き、V字きざみの下に古ハガキを置く。
- ③ 火きり杵を火きり臼に垂直に立てた状態で、V字きざみのへこみに合わせる。
- ④ 芯棒を回転させ、ロープに巻きつける。
- ⑤ 両手で横木を持ち、ゆっくり下げて芯棒を回転させる。
- ⑥ ロープが伸びる少し手前で力を抜くと、反動で自然にロープが芯棒に巻きつき、横木が上がってくる。
- ⑦ この上下運動をゆっくりと繰り返し、少しずつ力を入れていく。（2人組で向き合い、一緒に回すことで、回し続けられる。）
※ここで回転を下げたり止めたりすると、温度が下がり火種が出来ない。
- ⑧ 煙が出てきたら、さらに力を加えて回転し続ける。
- ⑨ 黒い粉の中にオレンジ色の火種が出来たら、回転を止める。
- ⑩ ハガキから鳥の巣状の火口にそっと火種を移す。
- ⑪ 静かに息を吹きかけながら、火種を大きくする。（勢いよく吹いて、吹き消さないようにする。）
- ⑫ 火口に火種をやさしく包み（しゅうまいの皮の様に。）
- ⑬ 合わせた口をしっかりとつまんで、ゆっくり大きく回し発火させる。

※火を使うので、火傷に十分注意する。

※火傷対策として、水をバケツに用意しておくといよい。

片付け

- ① 道具を片付ける。

- ② 使った場所の掃除をし、ゴミは所定の場所に捨てる。(燃えカスは、火事にならないよう決められた場所へ集める。)
- ③ 麻ひものかすや、燃えカスが散らばるので、掃き掃除を丁寧にする。

まとめ

- ・ふりかえり
- ・感想発表等

留意点

- ① 火を使う活動です。火傷等充分注意しましょう。
- ② 火種を回す場所を確保するようにしましょう。火おこしをしている所で回すと、火種が飛び散ってくる場合があります。人のいない所で回しましょう。
- ③ 後片付けを、しっかりしましょう。

指導のポイント・展開のアイデア

- ・現代では、簡単に火がつけられるようになり便利になったが、あらためて火の大切さとありがたさを考えさせましょう。
- ・麻ひものまとめ方は、穴が無いように注意しないとせっかく出来た火種がこぼれる原因になります。
- ・二人組で向き合って、交代で火おこしすると疲れにくいようです。
- ・はずみ車の回転力を利用した道具であることを理解させるとよいでしょう。
- ・タイミング良く回転させ、徐々にスピードを上げるようにさせるとうまく回せます。

*1 指導可能時間は 9:15~11:45 13:00~17:00 です。指導希望団体が重なる場合等、ご要望に添えない場合や、団体指導者をお願いすることがあります。

*2 60人を超える場合は、2班に分けて実施したり、交代で実施していただく場合もあります。